

Shin Murakoshi: 50 years with Orienteering, Event 5  
飯能マウンテンオリエンテーリング: Road to the Champions  
プログラム

競技オリエンテーリング黎明期の聖地であり、村越がオリエンテーリング競技者としての第一歩を踏み出し、第一回全日本大会で優勝した七国峠をはじめ、加治丘陵、高麗丘陵、朝日山、多峰主山周辺等を巡ります。



(多峰主山頂より、加治丘陵・七国丘陵、朝日山の一部、を望む)

【要項】

開催日: 2024年10月5日(土) 荒天中止

主催: TEAM 阿闍梨 NPO 法人 M-nop

協力: Club 阿闍梨

スタート会場: 飯能市阿須運動公園西側駐車場(西武池袋線元加治駅より1.3km)

(<https://maps.app.goo.gl/j6aZeprJwLs1wcfT9>、または右 QR コードより)

フィニッシュ会場: 本郷自治会館(本郷倶楽部会館)/西傳寺 (飯能駅まで約2.2km)

357-0063 埼玉県飯能市飯能 698 <https://maps.app.goo.gl/bq4L1w4AFCzo3UUx6>

西武池袋線飯能駅・東飯能駅まで約2.5km

国際興業バス 会場から徒歩3分: "本郷"バス停から飯能駅まで約7分

時刻表:

<https://transfer.navitime.biz/5931bus/pc/diagram/BusDiagram?orvCode=00021953&course=0001000851&stopNo=57>

**フィニッシュ会場に駐車はできません。近隣の有料駐車場等をご利用ください。(10/1 追記)**



## 参加者のみなさまへお願い

自然あふれる奥武蔵でアウトドアアクティビティ、ナビゲーションスポーツを楽しみ、活動を続けていくために、下記のことを特に気にしていただくようお願いします。みなさんの行動・発言が今後このエリア、このナビゲーションスポーツの発展に大きく影響する可能性があります。未永く活動し、みなで楽しんでいくためにどうぞご協力ください。

1. 自らの安全管理を徹底しましょう。周囲の状況に常に注意を払い、自らを危険にさらすことのないようご注意ください。スタート、コントロール撤収時刻、フィニッシュ閉鎖時刻を常に気にかけてください。
2. 地元の方、ハイカーに会ったら挨拶をしましょう。すれ違う、抜かすときは声をかけ歩くようにしてください。
3. 自然へのミニマムインパクトを心がけましょう。ゴミは捨てず持ち帰りの徹底をお願いします。
4. 地図に記された立入禁止・通行禁止エリア、民家やゴルフ場など私有地、常識的に考えて立入不可と考えられるエリアには入らないでください。
5. フィニッシュ閉鎖時刻に間に合わなさそうな場合は積極的に緊急連絡先に連絡を入れてください。コントロール撤収時刻になり次第、コントロールの撤収を始めます。レースになるとどうしても目の色を変えてしまいがちですが、競技終了時間が近づいてきたら途中でも終了する、あるいはショートカットしフィニッシュへ向かってください。この時期は日没が早くなってきており、森は暗くなり気温の低下も考えられます。
6. 今回の使用地図、使用エリアはイベント当日のみ許可を得ています。地図複製は禁止、後日同コースに入ることは禁止します。

### 【スケジュール】

受付: 9:00-10:00

スタート: 10:00-11:00

スタート会場閉鎖: 11:20

フィニッシュ会場開場: 11:30

フィニッシュ閉鎖: 15:00(コントロール撤収はエリアに応じて 12:30 より開始)

フィニッシュ会場閉鎖: 16:00

### 【競技情報】

トレイン: 市街地に近い里山です。**エリアによっては、道以外の森への立ち入りが禁止されています。**地図に記載された注意事項を遵守してください。

地図: A3 サイズ縦長、縮尺 1:20000、等高線間隔 10m。0.08mm 厚チャック付きポリ袋入り

国土基盤情報を元に作成。道は追加・修正。通行可能度なし。コース上やルートチョイスに影響する部分は通行可能な道等は調査・記載してありますが、場所によっては未記載の道・建物や、記載されていない道・建物もあります。

### 【コース情報】

・ロング(直線 14.6km)15cp アップ 770m

・ショート(直線 9.6km)9cp アップ 530m

(ロード区間も長いので、奥武蔵マウンテンオリエンテーリングと比較すると 1Kあたりのタイムは短めです)

**【競技時間】** 最大 5 時間 必ず 15:00 までにフィニッシュしてください。(途中から随時コントロール撤収が始まります)

## 【必須装備】

コンパス、飲料(500ml 以上を推奨)、携帯電話、地図(主催者から配布)、ホイッスル

## 【当日の流れ】

### ●会場・受付

駐車場のスタッフの車に TEAM 阿闍梨の旗を目立つようにしています。その車が受付となります。

No.とクラス、氏名を申告してください。SI カードをレンタルする方は受け取ってください。

スタートからフィニッシュまでの荷物搬送をします。荷札に名前を記載し荷物をまとめた上、指定の場所(スタッフの車)に預けてください。貴重品は各自で管理してください。

スタート会場は特に場所を借り切っていません。他の公園利用者、自家用車等の妨げにならないようご注意ください。

### ●スタート

受付から約 1 分です。スタート時刻はフリーです。10:00-11:00 までにスタートしてください。スタートとともに地図を取り、必ずスタートユニットにパンチしてスタートしてください。

スタートの場所が地図上の△(スタート)となります。

### ●競技中

トイレは地図に記載された場所で必ず済ませてください。不安な方は携帯トイレの携帯を推奨します。

自動販売機の使用は可能です。十分な飲み物を携帯して競技に臨んでください。

途中、交通量の多い道路を横断します。車の通行に注意し横断すること、また地図上に横断指定がある箇所を通るようにしてください。

### ●コントロール撤収時刻

各コントロールには撤収時刻が設定されています。地図横にあるコントロール位置説明とともに記載されていますので確認してください。撤収時刻になるとすぐにコントロールは撤収されていきます。撤収時刻を過ぎてしまった場合は次のコントロールには向かわずショートカットしフィニッシュ閉鎖の時刻までに必ず戻るようにしてください。

### ●緊急の事態が起こったとき

何かしらトラブル等が発生した場合は、地図上に記された緊急連絡先へ連絡してください。

救急等の緊急事態が発生した場合は、最初に 119/110 へ連絡をお願いします。その後緊急連絡先へ連絡してください。

### ●フィニッシュ

荷物の到着は 11:30 以降となります。

会場すぐそばのフィニッシュに置いてあるコントロールユニットにパンチすると競技終了になり、競技時間の計測が終わります。記録の読み取りを行いますので、そのまま帰らず計測デスクまでお越しください。

計測後、参加賞をお渡しします(ノベルティーグッズ)。

## 【表彰】

当日の表彰式はありません。各クラス男女 3 位まで表彰、賞品を進呈。

### 【競技上の注意事項】

- 1) 管理が不十分なアウトドアで行うスポーツである、舗装された道路以外にも未舗装のトレイル、森の中を走ることがあります。そのリスクを十分理解し、常に自らの安全を最優先に行動してください。
- 2) フィニッシュ閉鎖時刻にはフィニッシュに到達できるよう、行動してください。各 CP の撤収時刻以後は現地にフラッグ・計測ステーションともありませんので、速やかに次のエリアに向かってください。
- 3) 自力対応が難しいけが等で窮地にある他の競技者に遭遇した場合には、その救助を優先させてください。
- 4) ルート上は住宅街や農業エリアを通過する場所もあります。公園等の公衆トイレ、コンビニ、自販機の利用も制限はありません。市民としての良識を守って行動してください。
- 5) 参加者が第三者へ与えた事故、損傷、損害について、主催者は一切責任を負いません。主催者は傷害保険に加入しますが、補償額には限度があります。各自で体調管理に責任を持って参加してください。健康保険証の持参をお勧めします。
- 6) 大会中の写真、映像、記事、記録などの肖像権・掲載権はすべて主催者に属します。大会の映像・写真・記事・記録がインターネットに公開されることがあります。
- 7) 自分で出したごみは必ずお持ち帰りください。
- 8) 気象警報が発令された場合など、参加者の安全が確保できないと判断される場合には大会を中止いたします。その場合の参加費の返金は致しません。

### 【計測】

コントロールの通過証明は SI カードを使用します。コントロールには、SI ステーションと呼ばれる器具をコントロールフラッグ(白とオレンジの目印)と共に設置します。SI ステーションにはそれぞれ異なる識別番号が割り当てられています。

例えば地図のコントロール位置説明で1(72)谷とある場合は、地図上の1番のコントロールは谷であり、正しくそのコントロールにたどり着いた時の識別番号は72番ということです。73番や71番といった違う識別番号のコントロールを見つけた場合は、違うクラスやコースの識別番号を意味します。

参加者のみなさんは必ず SI カードを持ってスタートします。コントロールでは、ステーションに SI カードをきちんと差し込み、光と電子音を確認してください。

万が一反応がない場合は、お手持ちの携帯電話のカメラ機能で、ステーションの写真を撮ってください。

会場に見本を設置します。

SI カードを紛失した場合は、4,000 円を紛失代としてお支払うこととなりますので取扱いには十分ご注意ください。



### 【個人情報の取り扱いについて】

主催者は個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を厳守し、主催者の個人情報保護方針に基づき、個人情報を取り扱います。

【問合せ先】 田島 メールアドレス: rika7@teamajari.com 当日のみ: 090-7707-3920

## 【テレイン解説】

解説：村越真

今回のマウンテン O は、村越がオリエンテーリングを始めたおおよそ 50 年前からほぼ 1-2 年のうちに経験したテレインであり、その地図は初期のオリエンテーリング界の先人たちが精魂を傾けて作成した地図ばかりです。

今回の地図は国土基盤情報から作成されたものですが、レーザー測量データによる等高線は、当時の先人たちがまさになめ回すようにして描きあげた地形を苦も無く再現しています。50 年間の地図作りの技術革新に思いを馳せると同時に、先人たちの技術力に感嘆せざるを得ません。

その意味で、このマウンテン O は村越のノスタルディック・ジャーニーであると同時に、オリエンテーリングマップの先人たちへのオマージュでもある。ここにそれらのテレインを私的に紹介します。なお、当時は地図名を着ける習慣がないので、名称はエリアの代表的な地名またはその後の地図の名称に準拠している。

### ①加治丘陵(パーネントコース(PC)仏子、PC 元加治、1976 年みちの会大会)

1970 年に総理府の補助金でオリエンテーリングの PC が各地で整備された。その 1 番の番号を持つのが加治丘陵の「元加治」である。このコースは難コースの誉れ高かった。同じ加治丘陵の東部にある「仏子」は 1974 年 4 月 29 日、村越が初めてオリエンテーリングを体験した思い出の地である。深読みしすぎたためとは言え、たかだか 1 km もない 1 番コントロールまで 40 分かかったのも、今となれば微笑ましいエピソードと言える。

その後、このテレインは 1977 年に、当時まだ大学・高校在学のクラブ員たちからなるみちの会が大会を開催した。等高線はもちろんだが、その精緻な水系の表現には、彼らの地図に賭ける思いを今でも感じることができるだろう。作者は、当時大学 1 年生であった山岸倫也氏であった。山岸氏はこの年の 11 月に、東日本大会の地図を作成・作図した。これは、世界に出しても見劣りしない地図であった。

上位選手不在とは言え、村越はこの大会で最上位クラスで優勝した。雨中で転倒して脚をつりながらの結果だけに複雑な思いで、取材を受けたオリエンテーリングニュースの記者に、「みんな遅い」と毒づいた憶えがある。

現在、「お鷹様」のために、林内に立ち入ることはできない。

### ②七国峠(1975 年第一回全日本、他)

1975 年の 2 月、記念すべき第一回全日本大会がこの森で開催された。そのころの競技を牽引した多摩オリエンテーリングクラブのメンバーを中心に作成された地図は、当時の最高峰であり、今見てもその美しさには目を見張る。作成の中心にいた佐藤綱一氏は、その半年前の 1974 年の東日本大会でも⑤で紹介する高麗峠の地図を作図した。いずれの地図も作図は美しく、それが製図ペンで描かれたことに驚嘆するしかない。佐藤綱一氏は今でも私の Hero である。

出場したのは H14B クラスであった(H14 には A はなかった)。優勝が決まった時の気持ちも表彰式があったのかどうかさえ思い出せないが、レースが終わってフィニッシュから会場である元加治小学校に向かうバス(距離が遠かったのでバスが運行されていた)の前部の座席に、すがすがしい気持ちで座ったことをなぜか憶えている。おそらくレース内容にも満足していたのだろう。



### ③朝日山(1975 年第一回全日本の徒歩オリエンテーリングの部、他)

当時は七国や高麗峠と並んで練習等にも多用されたエリアであった。現在ではその中心部は全て美杉台として宅地化されているが、地図名となった主峰朝日山周辺は展望公園として林が残され、公園化されている。

また、このテレインは、前年 1974 年 5 月に 7000 人を超える参加者を集めた読売新聞の大会のエリアでもあった。駅から歩ける距離にこのような丘陵地があったことが飯能を初期のオリエンテーリングの聖地にし、またみちの会という傑出したオリエンテーリングクラブを生んだ。

#### ④多峰主山・天覧山(1975 年サンバード大会(主管東京 OLC、みちの会大会))

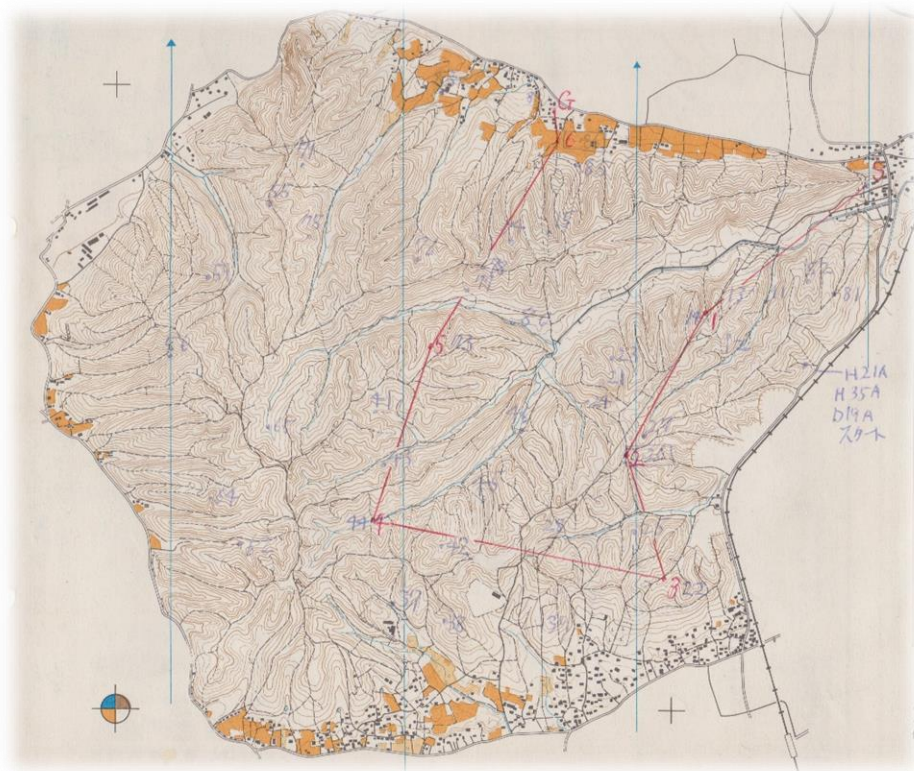
10 月に東京オリエンテーリングクラブとみちの会が全く独立してこのエリアで地図を作り、大会が開催された。東京 OLC の地図は作図と印刷の美しさという点で(おそらくスクライブによる作図である)、みちの会の地図は表現された内容という点で、当時の最高峰をいく地図と言える。私はみちの会大会に参加後、当時は憧れの対象でしかなかった第一回全日本大会ジュニア(H18A)優勝の安藤尚一氏(みちの会)に、やはり憧れの対象でしかなかった鈴木規弘氏、高尾昭次氏とともにお邪魔させてもらい、親交を持つことになった。

その年の全日本優勝のご褒美として北欧遠征した安藤氏の遠征時の地図や写真を、鍋焼きうどんをごちそうになりながら眺めたことは、今以て記憶の中に鮮明である。この時から(中学 3 年生)、北欧遠征への強い意識が芽生えた。今思えば、あの日、私の人生は大きくうねりはじめたのだろう。

このエリアも朝日山同様西武鉄道により開発される予定であったが、市民の反対運動もあって森と丘陵が守られた。

#### ⑤高麗峠(1974 年。第一回東日本大会、同年多摩オリエンテーリング大会)

日本人の手による初めての本格的 O-map が 1974 年の 9 月に作られた。②で触れた通り、地形図かそれに加筆した地図しか知らなかった中学生にとって、その地図は衝撃的な美しさであった。おそらく参加した人のほとんどが同じ思いを抱いたことだろう。今思えば、修正されていたのは道のみであったかもしれない。しかし、それでも十分にインパクトのある地図だった。私にとっては初めて出場した公認大会であり、大きなミスをして 10 位にも入れなかったことは、後で振り返ればむしろ幸運なことであった。その後も何度も大会や練習会に利用された。私にとって故郷のような森である。



七国峠(第一回全日本大会地図。作図:佐藤綱一)